

## 有範堂

以上述べましたようないきさつがありまして、法界寺の日野家の由緒の地が本山の手で顕彰されましたので、翌年の文政10年の夏、ここに一つの堂を建てることになり、明くる年の11年9月にでき上がりました。本如上人は9年の暮れに御遷化になりましたので、これは次の広如上人の時代です。そして、この堂に関係の宝物を納めました。これを有範堂とも宝物堂とも呼んでいます。有範堂というのは、親鸞聖人の父上が有範卿でありますので、聖人がここで有範卿の子としてご誕生になったことを記念したものであります。

この文政12年(1829)10月には、法界寺の日野家の祖・真夏の一千年忌が営まれました。そこで広如上人が御参詣になっていますが、この後にも上人は何度かお参りになりました。ことに4月朔を親鸞聖人の御誕生日として参詣されています。この日は、明治になって、太陽暦に換算して5月21日となりましたことはご承知の通りであります。

なお、この御旧跡の地が、我が本願寺によって顕彰されましたについて、実際その衝に当たって努力したのは、先にもちょっと申しましたが長門常元寺の速満坊僧糠と美濃専精寺の正聚坊僧純とであります。常元寺は下関市にありますが、僧糠は本名を聞歎といった人で、その肖像や関係の文献を今も伝えています。この方は角坊の聖人ご往生地の開発にも力を尽くした人です。美濃垂井の僧純は京都に常在して、本山の諸方面で働いた人ですが、沢山なる著述の中に『皇都靈跡志』というのがあり、安政5年(1858)出版しています。その中にご誕生地として日野法界寺を上げ、その由緒を記しています。聖人の「産湯の井」や「胞衣塚(えなづか)」のことも、その中に書いてあります。(宮崎円遵)